

4車線化・6車線化

安全・安心の更なる向上を目指して

■ 暫定2車線区間の課題

速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなっています。

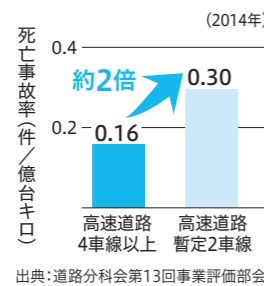


阪和道 印南IC～みなべIC

→ 時間信頼性確保

正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが4車線区間と比較すると高くなっています。



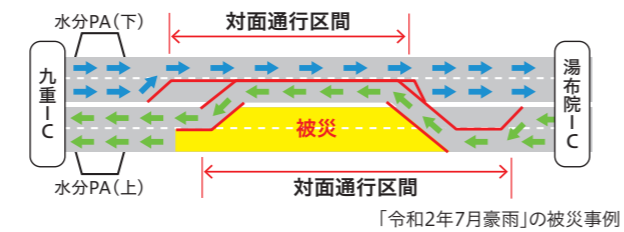
→ 事故防止

事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.18へ

通行止めの発生や長期化

- ・事故や積雪等による立ち往生発生時に追越ができず通行止めとなります。
- ・大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- ・災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

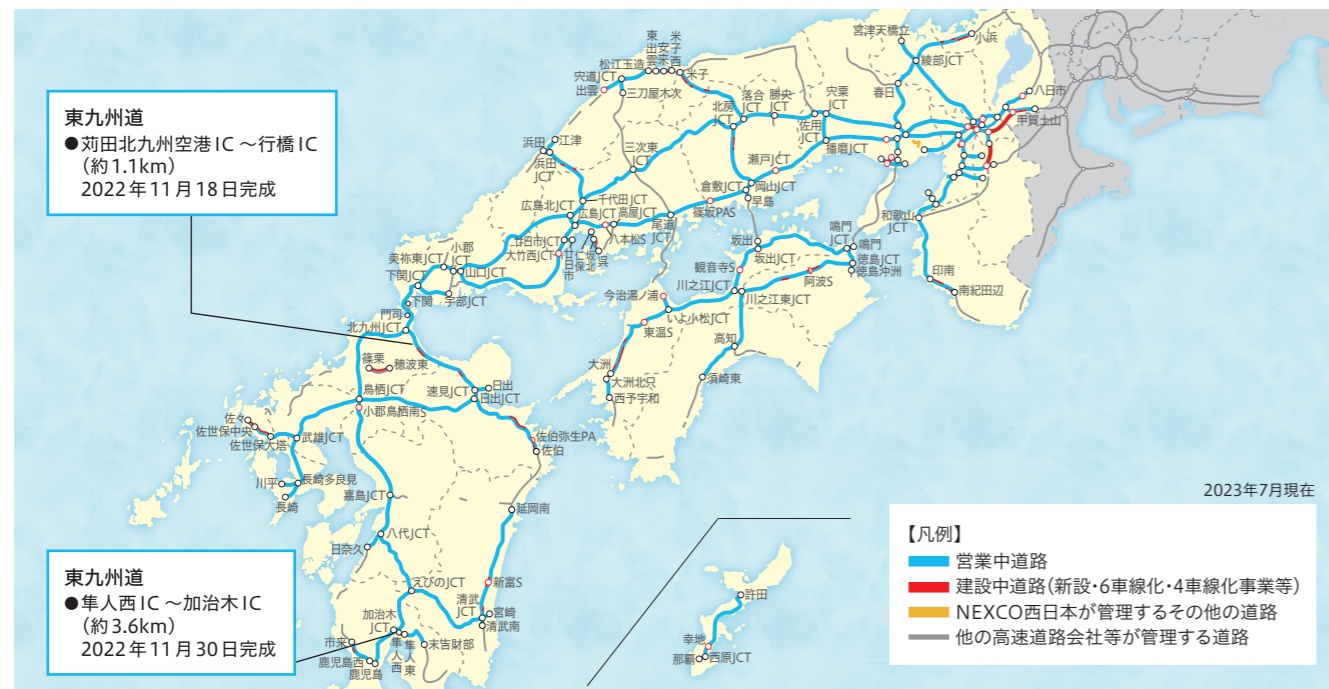
→ ネットワークの代替性確保



4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能を確保し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。

■ 課題への対応 — 4車線化 —

暫定2車線区間における課題を踏まえ、当社としては、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の解消を重要な施策と認識し、計画的な4車線化を推進しています。



① 4車線化完成後に、広島呉道路 呉トンネル下り線となる予定のトンネル掘削工事の様子。広島呉道路は、平成30年7月豪雨により大規模な盛土崩落が発生し、国道・JR線を含め長期間の交通寸断が発生した路線です。防災・減災のため、4車線化事業を推進しています。

② 西九州道では、交通混雑緩和等のため、4車線化事業を実施しています。県道が並走する市街地区間等で長期間の夜間工事を行っており、騒音振動等に細心の注意を払いながら慎重に施工しています。

③ 松山道4車線化事業では、急峻な地形の中で施工する箇所も多く、地すべり対策や大規模な仮橋の設置を行い安全第1に工事を進めています。

現場見学会を通して地域の教育に貢献

当社グループは、「人とモノの流れを支える」という高速道路の役割を果たすだけでなく、建設現場や料金所等を地域の教育の場として提供する活動を続けています。



ジュニア防災リーダークラブ現場見学会(愛媛工事事務所)

Voice

地域との幅広い交流

愛媛大学・東京大学・松山市が主催するジュニア防災リーダークラブ活動の一環として、高速道路の事業説明と建設現場見学を行いました。小学生～高校生の幅広い参加者の方に、建設・改築事業を含む高速道路の地域防災上の役割や橋梁の構造への理解を深めていただくことができました。

これからも、地域の皆さまに興味関心を持っていただけるような現場見学会等のイベントを企画していきたいです。



四国支社 愛媛工事事務所 工務課 溝上 尚弥

社会の変化とともに高速道路も、より強く

■ 新名神高速道路の6車線化

1. 物流効率化

新名神の大型車交通量は供用後、増加傾向にあり、ダブル連結トラックやトラック隊列走行など、次世代の物流システムの実現を見据えた対応が必要になります。6車線化により、走行快適性に加え、低速度の大型車と高速度の普通車の混在を減らすことで安全に走行できます。また、物流の効率化に寄与し生産性向上が期待されます。

2. 災害時における代替性の強化

名神とのダブルネットワークの安定性向上により、ネットワークの代替性が強化されます。降雪や地震等の災害発生時に名神が通行止めとなった場合でも、新名神が代替路として機能し、東西軸の安定的な交通確保に寄与します。

3. 名神高速道路のリニューアルプロジェクト時における渋滞の抑制

今後本格化する名神のリニューアル工事実施時に、名神からの迂回車両により新名神の交通量が増加した場合においても、渋滞の発生を抑制し、名神軸の円滑な交通確保に寄与します。

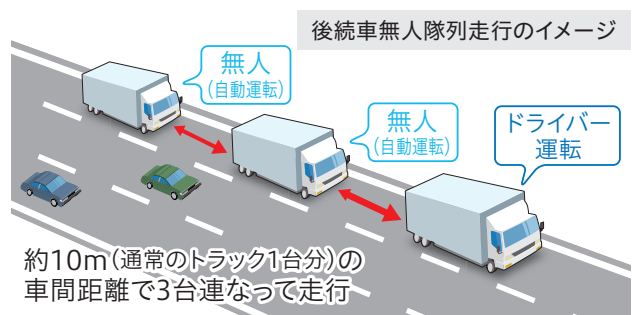


2023年3月30日、甲賀土山IC～甲南IC間約6kmの6車線化が完成しました

後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化しています。労働生産性の向上や働き方改革の実現など、短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。

現在、後続車無人隊列走行システム(東京～大阪間)の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から、新名神高速道路の6車線化等を進めています。



後続車無人隊列走行のイメージ

約10m(通常のトラック1台分)の車間距離で3台連なって走行

Voice



工事中も開通後も、安全・安心な道路

滋賀県の甲賀土山IC～甲南IC間約6kmの区間を6車線に拡幅する工事を担当しました。この区間では、拡幅する部分の車線幅を確保するために、上り線と下り線の中央部の盛土を取り除く工事を行いました。既存車線の車線規制を行わずに累計7千台以上の工事用車両を追越車線に合流させる必要がある等、6車線化工事特有の難しい面も多くありましたが、無事故で終えることができ、大きなやりがいがありました。日本を支える重要なインフラの一つである高速道路を、何年先も安全・安心にご利用いただけるものができるよう、これからも努めていきたいです。

関西支社 新名神大津事務所 甲賀東工事区 藤掛 佑基